

平成二十六年七月に観音巡禮ツアーに参加し、七カ寺巡りし事はすでに記す。八月のツアーは盆を過ぎし十九日に八カ寺巡りたり。秩父より遠離(ざか)る横濱發以外は満席にて、長時間のドライブも餘儀なし。新設の環状線、東名高速、中央高速經由して關越に繋がるども、途中澁滞顯著なる國道十六號經由なれば、それ故の遅延避くること能はず。バスは三時間に餘る走行の末、秩父には豫定より遅るること一時間半を超過して到着す。眞福寺、金昌寺、語歌堂、常泉寺、法長寺、ト雲寺、西善寺、明智寺を巡禮し、全行程終了せるは五時半にぞなりにける。横濱歸著は八時を過ぎたり。歸宅は十時に近くならんと想定し、軽き食事をするの要ありとて、友人と蕎麥屋に入りて後、歸路に就く。

翌月の第三回ツアーは九月末となれり。秩父の空は高く、秋の氣配感ぜられ、七月と八月の巡禮ほどには過酷ならず。回るべき寺は九箇所あり。而して、晝食はツアーの都合上一時半を過ぐる豫定なれば、その前に巡禮のほぼ全行程を終へざるを得ずといふ。空腹なれども晝食場所には程遠く、食事せざればエネルギー不足に陥る我にとりては辛き道なり。修行の足りぬことかと反省す。神門寺、龍石寺、岩之上堂、觀音寺、童子堂、音樂寺、法泉寺、久昌寺と巡り、待望の食事の時間となれり。最後の今宮坊はもともと修驗道の本山として榮えたる寺にて、名稱に唯一坊と附く説明を聞く。そは秩父札所十四番にて藤原時代後期の秀作木彫りの飛天像あり。跪座して雲に乗りたる異色の佛像として注目せられ、昨年の晩秋より本年一月まで、サントリー美術館にて開催の「平等院鳳凰堂平成修理完成記念―天上の舞 飛天の美」展にも展示せられたり。我等は手の届く程近くにてその美しき佛像を見ることを得、合掌す。

晝食を犠牲にして殆ど巡り了へ、三時半には全行程を終了し、四時には歸路に就き、新宿歸著は五時半となり、八月のツアーに比し、身體的には疲れの残らぬ巡禮とこそなりにけれ。